

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム設楽の家
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	設楽町
記入者名 (管理者)	小林 美和子
記入日	平成 20年 6月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	政本病院グループの基本理念は自立・共生・友愛である。地域密着型サービスとしての理念は特に掲げていないが自立・共生・友愛につながると考えている。	○ 地域の中での自立・共生・友愛を具体的に体現していきたい。グループホームとしての自立の姿・地域清掃やリサイクル活動・野菜・花植え・祭り参加・保育所・学校との交流等で共生・友愛を深めたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、年に1・2回研修会等設け、理念を再確認し、実践・努力を図っている。	○ 管理者と職員は、事業のあり方、運営について具体的に個々に話し合い、企画を立て理念をふまえた実線を心掛けたい。ボランティアでも受け入れたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域への理念の浸透を計るため、季節ごとの行事や生活上の行事の開催をお知らせし、参加・交流を勧めている。また、施設としての考え方を月々の便りや運営会議で報告している。	○ 講演会や季節、地域の行事等開催し、家族・地域の人々、ボランティア等広く募り受け入れて行くようにする。地域に密着しながら地域の中で暮らし続けていく理念を発信し続けて行くようにする。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣地にグラウンドがあるので、グラウンドゴルフをやる人が来たり、草取り整備をする作業員が来たりして、ホーム周辺が賑やかになる。散歩や病院受診時、地域行事への参加等の時、地域の人が声をかけてくれ交流できる。家庭で出来た野菜を届けてくれる。	○ 地域の人達と明るい挨拶をしていく。ボランティアを広く受け入れ(介護・野菜作り・工芸・演芸等)交流していく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会・学芸会・老人会・お祭り参加等を外出企画として実施している。	○ 小学校の運動会・学芸会・老人会・お祭り・イベント等、早くに情報を得て外出企画を豊富にしていく。防災訓練等参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の個々の状況は違うし、守秘義務もあるので地域高齢者の暮らしに役立たせる話し合いの実施は難しい。	○	地域の研修・勉強会等で参考例を発表して話し合いの場面にしていく。地域の認知症ケアの相談窓口になっていきたい。実習生を受け入れたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は自己評価及び外部評価を生かし、具体的改善に取り組んでいる。特に個々の立場では改善点を明確にし、努力している。	○	自己評価と外部評価を検討し、更なる見直し、改善意識合わせ、ケア振り替え等綿密にし、改善を計りたい。具体的実践改善計画を立て確実に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告・情報交換をし、率直な話し合いを努力している。	○	事業所の状況・利用者の状況、改善点等、明確にし率直に話し合い、サービス向上に生かしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に何度も役場、関係機関を尋ね、情報交換・話し合いを行っている。サービス向上に積極的に取り組んでいる。	○	事業所としての独自性を訴え理解と協力のもと、連携を深めたい。出来る限りの情報公開もし、アドバイス助言を求め、地域に開く事業所としてサービス向上に努力したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には活用できるよう具体的支援をしている。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習し、個々の必要性に応じて助言・活用・支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学び、利用者の自宅や事業所内で虐待が起きないように、また見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	○	虐待について勉強会やミーティング等、頻繁にし、認識を高め、自己行動を点検していく。事業所内で起きていないか点検し、虐待の起こりそうな場面について対応や考え方について話し合いや勉強をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	○ 充分、時間をとって丁寧な説明・案内をし、不安・疑問等取り払って契約していただく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	我が事業所は、利用者が認知症のため意見・不満・苦情を表現しにくい。職員が生活の中から汲み取ってよりよい生活の為に努力している。運営推進会議は実施されている。	○ 利用者や家族が意見・不満・苦情等、表現できるよう、話し合いの場を設け、耳を傾けていく。運営推進会議をもう少し気楽な会議にしていく努力をする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について定期的及び個々に合わせた報告をしている。特に利用者の状態については職員が肉筆の手紙を書き送っている。	○ 利用者の暮らしぶりや健康状態・受診結果・金銭管理・職員の異動等について家族へ定期的及び個々に合わせた報告をしていく。手紙・FAX・電話等、状況に応じて適切な手段を用いていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見・不満・苦情等を管理者や職員・外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させている。	○ 運営推進会議をきちんとやり、反映させていく。家族等が意見・不満・苦情等、表現できるよう管理者・職員はよく傾聴する。表現された事項に関し個々に応じ検討し、反映させていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会・個別面談等、一般的なコミュニケーションは図られているが、運営に関しては運営者・管理者主体で動いている。	○ ミーティング・研修会・個別面談等で職員は運営に関し、意見や提案をしていく。勤務や厚生面について意見を言っていく。運営者・管理者はそれらを聞いて反映・実現させていく努力をする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、職員の勤務調整がはかられている。職員の異動・離職等最大努力している。	○ 利用者の状況変化、要望に対し速やかな適切な対応ができるよう、余裕のある人員確保をしていく。話し合いの上、勤務調整をに対応していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者がなじみの管理者や職員から支援が受けられるよう、異動や離職時には気を使っている。代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。(話し合い・場所替え)	○ 利用者が馴染みの管理者や職員と生活できるよう、異動・離職は最小限に抑える努力をする。新しい職員とスムーズな移行ができるようする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	職員の段階に応じた人財育成を計画的に実施する。年齢や働ける時間帯(パート)等で区別せず、良質な標準的な人財育成を心がける。働きながら学ぶ力を身につける。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	役場・地域包括支援センターによる研修会・行事等に積極的に参加していく。交流を喜び、向上し合う気概をもっていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	事業所内外の親睦会・交流会・行事等に参加する職員のためのカウンセラーをおいて職員のストレスを聞いてもらう。食事・休憩等は利用者から離れ、有給等希望日に取れるようにしたい。余裕のある人員確保望ましい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	運営者は資格取得の為の支援を行う。職能評価をし、向上心を盛り上げる。個々の職員の希望や悩み等、把握し、きめ細かな支援をする。資格取得後は職員内で生かしていく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	相談から利用に至るまで、本人の話を十分に聞き、信頼を得たい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること・不安なこと・求めていること等を機会を作って聞いていく。家族の苦労や今までの状況などについても、ゆっくり聞き、相談に乗っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人の家族の思いや状況等を確認し、必要としている支援を提案し、行っている。	○	ショートステイやデイサービスのように遊びに来て頂き、慣れてから入居して頂けるようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と話し合いながら、利用者開始の調整を行い、安心して利用できるように支援をしている。	○	場の雰囲気に慣れて頂くために、デイサービスのように遊びに来て頂き、慣れてから入居して頂けるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が協働しながら、和やかな生活が送れるように配慮している。	○	利用者と職員が交流を持つために談笑する時間を多くとっていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを伝え、利用者を支えていくための協力関係を築けることが出来ている。	○	施設に来て頂けるような企画を計画していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出・外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族で誘い、家族と過ごせるようにしている。	○	家族と一緒に外出・外泊が自由に出来るように取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用しているお店に買い物に行かれたり、なじみの人が会いに来てくれたり等、交流が出来るように支援している。	○	利用者の行きつけの場所に行ったり、馴染みの人に会えるように取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が円滑になるように職員も一緒に会話をしたりしている。	○	利用者と一緒に作業したりして、利用者それぞれの個性を活かせるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も、遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるよう心掛けている。	○	関係を断ち切らないようにする事は、なかなか難しいことですが、努力しています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、声をかけ、把握に努め言葉や表情などから真意察し、確認するようにしている。	○	余暇活動等を通し、利用者様の気持ちを把握するように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身から出てくる、昔の話や家族・知人等の訪問時などに、少しずつ把握に努めている。	○	日常会話等から、これまでの生活歴を聞き、その暮らし方に最も近づけるような支援をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し、行動などから、その人全体の把握に努めている。	○	一人ひとりが自信を持ち、喜び、楽しみが感じられるような生活が出来るよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聞き、反映させるようにしている。職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。	○	本人や家族の要望を聞く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも三ヶ月に一回、モニタリングをし、現状に応じたケアプラン作成している。	○	現状と介護計画の違いがないよう実情に応じたケアにつなげるようなケアプランの見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分量・排泄等身体的状況・日々の暮らしの様子等を記録し、いつでも職員が確認できるようにし、勤務開始前の確認をしている。	○	今までどおり、細かくチェックし記録等残していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。	○	これからもそのようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に避難訓練や救急救命講習に参加しています。又、ボランティアの方に行事に参加して頂いたりしています。	○	地域の機関等と協力しながら必要に応じた対応をしています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者とは蜜に連絡を取り支援しています。	○	本人にとってもっとも適したサービスを利用できるよう継続して欲しいと思います。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のサービス事業者・関係団体。民生委員・一般住民等によって構成される方達によって認知症の方を地域で支えるため、協働しています。	○	今後は、ますます認知症の方も増え、より一層地域包括支援センターとの協働が大切になっていくと思います。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様が希望する「かかりつけ医」となっている。定期的に受診し、健康状態を把握して頂く様にしています。	○	今後も変わりなく、本人やご家族様の希望を大切に受診していきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>指定医の指示に従い、支援している。</p>	○	常に指定医と連携を結び、必要性があるときにはもっとも適切と思われる所に紹介状を書いて頂いている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>特に看護職との協働はしていない。</p>	○	看護職員を配置し、利用者の変化に応じた支援を行えるようにしたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>病院のソーシャルワーカー等に意見を聞き、参考にしている。</p>	○	面会に行ったとき等、状態を病院関係者から情報を得て把握するように努めるとともに、家族とも情報交換しながら退院支援に結び付けている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>グループホームでは医療的なことはできないので、重度化した場合は病院にお願いする。</p>	○	常に協力医と連絡を密にし、緊急時には本人や家族に不安を抱かせない様、対応していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>主治医、家族、施設の職員と話し合いを持ち、十分に検討している。</p>	○	十分に検討し、家族・本人にとってもっとも良い方法が取れるよう支援していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>ほかの事業所に移られた場合、ケアプランや支援状況等を手渡すと共に情報交換を行っている。</p>	○	これまでの暮らしが継続できるよう、これまでの支援の内容等を情報提供していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一同常に気をつけている。	○ 目立たず、さりげない言葉かけや対応にも配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示が困難な方でも、表情を読み取ったりして本人が決める場面を作っている。	○ 職員側で決めたことを押し付けたりせずに、利用者様、一人ひとりが自分で決めていただけるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人一人の体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている。	○ 一人一人のペースを把握し、その人にあった支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常に清潔・身だしなみに気をつけて支援している。	○ 女性の利用者が多いため、日ごろからおしゃれを楽しんで頂ける様、取り組んでいきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の調理の工夫に気を配り、希望に沿ってお手伝いをお願いしている。	○ 献立作りから利用者様と相談しながら決めるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限り支援したいが、現状はなかなかできません。	○ 健康状態から取り入れられない物もあるが、許される物であれば提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。	○	トイレ誘導しても応じてくれない方への対応なども考えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の希望時間に入浴できれば、理想ですが無理なので時間帯を決め、利用者様のその日の希望等を確認しながら入浴していただけるよう、心掛けています。	○	本人様の希望に考慮した対応ができると良い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様、それぞれ自由にして頂いています。夜間は照明など気配りし、安眠していただけるよう、配慮している。	○	一人一人の体調や表情・希望等を考慮してゆっくり休憩できるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようにし、感謝の言葉を伝えるようにしている。	○	何がその人の役割・楽しみごとになるか、把握し、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じて小額ではあるが、手元に持っただけでいる。	○	できる利用者については職員が付き添いながら支払いをするなど、お金に触れる機会を作る必要がある。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人一人の希望を受け入れ、散歩・日光浴は積極的に行っています。	○	日常的に外出が出来ていないので、散歩だけでなくドライブもかねて買い物をするなど日常的に行えるよう支援したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から希望が出たときは、実現に向けて職員間で話し合い支援している。	○	利用者の要望に少しでも答えられるよう職員間で話し合い、支援につなげるようにしていく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、電話や手紙を出せるように支援している。	○	利用者が家族や大切な人など、コミュニケーションがとりたいたいと思えるような働きかけをしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	都合の良い時間帯にいつでも訪ねて頂けるような雰囲気作りに心掛けている。	○	家族や馴染みの人が気軽に参加できるような企画、行事を行いたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束のないケアを実施している。	○	常に身体拘束を行わないケアの考えて取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したような様子を見たら、声掛けをしたり、一緒についていくなど安全に配慮し、自由に外出できる支援している。	○	天気の良い日には、外気浴が出来るように環境を替えたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者全員の状況を把握できるように、職員は利用者と同じ空間で作業を行い、安全に配慮している。	○	常に利用者にも目配り、心配りをし、安全に配慮していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じ、保管・管理が必要な物は危険がないように保管している。	○	利用者がそれぞれの危険要因を把握し、解決策を職員同士で話し合っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きたときには、速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策について考えている。	○	事故が起きた原因を考え、再発防止の対策検討に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急手当や蘇生術の研修を実施し、職員全員が緊急時に備えて対応できるように取り組んでいる。	○	訓練を受けるだけでなく、いざというときに自信が持てる様な取り組みをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・避難経路の確認・火災受信機の操作手順・消火器の位置・使い方などの訓練を行っている。	○	いざという時の為に慌てずに確実に避難誘導ができるように取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月、手紙を通して体調や様子等を伝え、面会にこられたときは詳しく説明し、ご家族様とコミュニケーションを計り、信頼関係を築けるように努めている。	○	状況変化に応じ、対応策等を話し合ったりしていきたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎朝行い、常に体調変化に気をつけるように職員全員で努めている。普段の体調を把握し、体調変化が見られたら、詳しく記録をつけるようにしている。	○	些細なことでも管理者へ直ぐに報告し、指示を頂き、迅速・確実に対応できるように取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、本人に手渡しし、服用できたか確認している。体調の変化がみられたら、記録をとり、早めに病院受診をしている。	○	薬の目的・副作用について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認等に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らず、自然排便が出来るようにラジオ体操やリハビリ体操への参加を促し、便秘予防に努めている。	○	自然排便ができるように、運動・食事などで工夫していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けをし、歯磨きを行っている。就寝前には義歯洗浄を行っている。	○	一人一人の口腔状態や力に応じ、口腔内の清潔保持を行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合った食事形態・量を考え提供している。また、個人個人で節水量が少なかったり、体調状態が低下している利用者様には詳細な記録をつけるようにしている。毎日の献立では、栄養バランスを考えながら立てています。	○	季節やその日の室温等に合わせ、また一人一人の状態や力・習慣に応じた支援をこれからもして行きたいです。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの声掛けをし、予防・対策に努めている。利用者の方及びご家族様の同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。床・ソファ・手すり等、毎日の掃除時に除菌し、清潔を保ち、予防に取り組んでいます。	○	常に清潔に保ち、予防に努め、これからも感染症に対する予防や対応等及び職員全体で知識を深めたいです。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等、定期的に漂白をし、清潔を心掛けている。冷蔵庫も清潔を保つよう心掛け、常に点検し、掃除を行っている。毎日、食材を配達して頂き、買いだめをしない様になっています。	○	今後も新鮮で安全な食材の提供が出来るように、衛生管理をしっかり行って行きたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチや花などを置いてあり、アットホームな雰囲気になっており、明るい感じになっています。	○	花などを増やし、玄関周りも気軽に立ち寄れるような雰囲気に、さらに近づけてる様な工夫がしたいです。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや全体の雰囲気作りなど、利用者からと一緒に考え、一緒に作り、その時の季節感を味わえる雰囲気作りに取り組んでいます。	○	居室・入り口などに、カーテン等で目隠しを作ったりと居室内のプライバシーをもっと守れるような空間に出来たらと思います。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルと掘りコタツ、ソファがフロアにあり利用者の方、それぞれが好きな場所で過ごせ、外にはベンチがあり、外気浴をしながら、他の利用者様と談笑できるスペースがあります。	○	共有空間では、一人になれるスペースは限られている為に、なかなか一人で過ごせないで間切りなどで個室空間が出来ればと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様、個人個人好みの物や家庭で使用していた馴染みの物を利用者様の生活スタイルに合わせて持ち込め、安心して過ごして頂ける様になっています。	○	いつでも使い慣れた物や使用したい物を持ち込め、その時の利用者様の状態に合わせての空間作りをしていきたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になるにおいが出る場所、トイレ、汚物室には消臭剤を置いたり、換気扇などで悪臭が出ないように、工夫しています。朝の掃除時には、フローヤや全室可能な限り換気をし、温度など利用者様の様子を見て調節するようにしています。	○	今後も悪臭防止に努め、工夫し、少しでも気持ちよく過ごせる配慮をしていきたいです。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、手すりを設置するなど安全確保に努めています。	○	利用者の方、一人一人に合わせて、今後とも、さらに自立した生活が安全に送れる様に工夫し、支援していきたいです。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の一人一人のADL状態を職員の把握し、何ができ、何を援助すれば良いか見極め、環境整備に努め、自力支援に努めています。	○	今後も、一人一人の思いを聞き受け入れ、安心して過ごして頂ける様、工夫し、話し合いながらより良い環境を作っていききたいです。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設内にある畑のスペースを利用し、利用者の方が日常的に楽しみながら活用、活動できる環境を作っています。夕涼みや外気浴ができるスペースもあり、活用しています。	○	建物の周りが広く、広い運動場もあるのでうまく利用し、利用者の方が楽しんで頂ける企画を立て、活動していききたいです。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・転倒や誤嚥等、事故の無いよう最大の注意を払っている。
- ・壁飾り・季節行事等、季節感を持って行っている。
- ・政本病院グループの一員として多くの研修会や資格支援等を受け、誇らかに仕事をしている。
- ・地域にあるグループホームとして、地域の人々から信頼と親しみを持たれている。